

10月から砕石各社積載自主規制 法律守って働ける業界にしよう



砕石工場から出る悪質過積載ダンプ(所沢ナンバー)

一〇月から栃木県砕石工業協同組合加盟の砕石会社を中心に、積載量規制の動きが強まっています。背景には深刻なダンプ労働者不足があります。違法労働が常態化している業界に担い手が育つはずがありません。
東京オリソニック需要を控え、労働条件、単価改善にむけて、業界一丸となって取り組むことが求められています。

七月二十七日、栃木県砕石工業協同組合と茨城県砕石工業協同組合は初めて合同で過積載防止に関する情報交換会を開催しました。両県は首都圏の骨材供給地として建設産業を支えてきました。
しかし、ダンプ労働者の高齢化による廃業、劣悪な労働条件による

フコックス争議から15年 飯塚委員長 本社勤務に 労使共同で社内改革めざす

戦前からバラセメント輸送企業として実績をもつ株式会社フコックス(本社東京)。建交労の職場組織ができたのは二〇〇一年でした。企業内労組が建交労加盟をすすめるなかで会社による組合つぶしが行われました。
多数の従業員が建交労を脱退、残った飯塚委員長はトレーラー乗務から単車乗務に車種変更を強行され大幅な減収を強いられました。さらに石井書記長(現専従者)は運転職から作業職に職種変更され、



8月28日建交労定期大会で発言する飯塚委員長

寒風吹き荒れるなかどぶ掃除をさせられるなど「さらし者」に。争議は主要荷主である住友大阪セメントも巻き込み勝利和解しました。あれから一五年、会社は最も嫌っていた飯塚委員長を今年八月から本社勤務に。飯塚委員長「争議のときは何度も退職を考えた。頑張つてよかった。労使共同でさらにいい会社になりたい」。

私たちは業界健全化にむけた具体的な対策を追求します。

栃木県「過積載防止のためのアクションプラン(行動計画)」

栃木県砕石協組では昨年二月に生コン業界などユーザー団体に「積載量の適正化」を依頼、また昨年五月には工場へのパトロールを強化し悪質な違反車両は写真撮影を行い関係会議で公表することにしました。

昨年一〇月からは県工業振興課が初めて採石法に基づく立入検査を実施(先月号既報)、一部関係者の間では県の「本気度」に驚きの

声が上がりました。一〇月から一部で予定されている積載量規制は、このような取組の一環です。言うまでもなく成否のカギは単

豊洲新市場建設工事も 違法改造ダンプ堂々就労

連日報道されている

豊洲新市場の移転問題

関東ダンプ協議会では

ダンプキヤラバン行動

の一環として、七月二

十七日東京都に要請、

豊洲新市場建設工事に

出入りする違法改造ダ

ンプの写真を示し都の

姿勢を迫りました。

しかし財務局担当者は

「大変参考になりました」

と他人事のような

めていきます。多くの工区が九十九%の落札率で大手ゼネコにより受注されており談合の疑いも指摘されています。

新国立競技場(大成建設)が落札率99.9%！(受注)も含め、徹底した調査により利権構造を明らかにすることが必要です。



大手ゼネコンがボロ儲けした豊洲現場で東京都職員の説明を受ける小池知事。